

昭和48年度

春山合宿偵察報告

東京都立富士高校山岳部

1973年10月8日発行

1973年春 合宿 駒山行

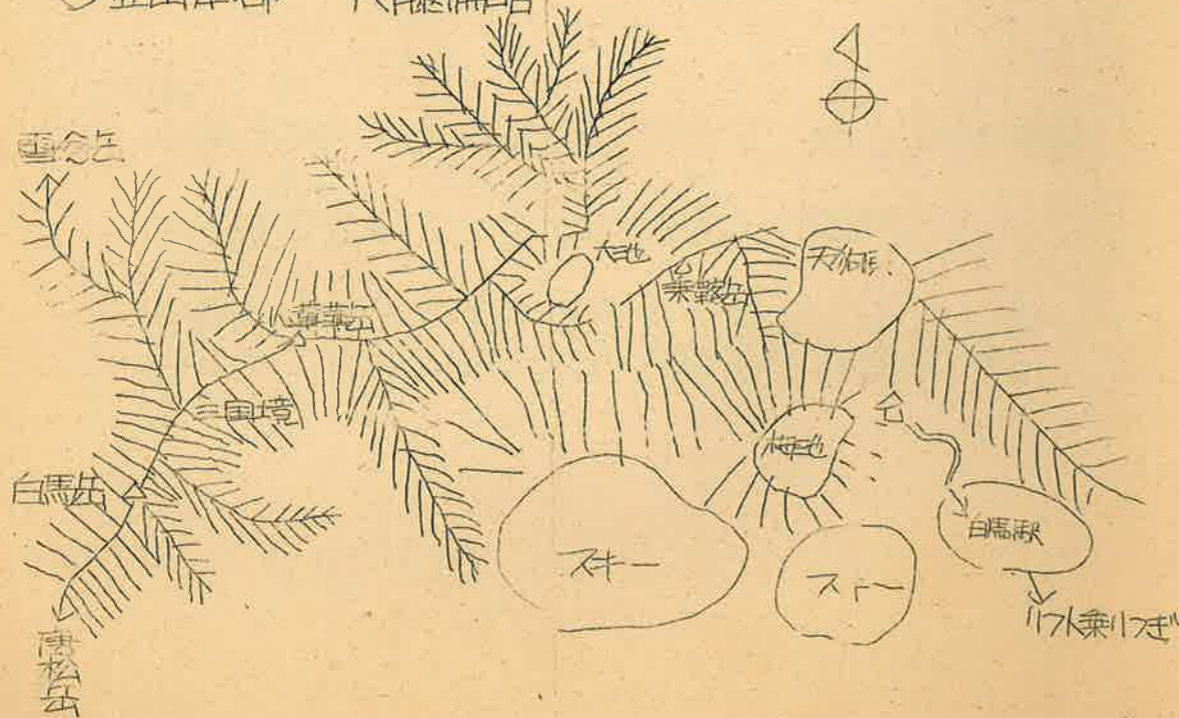
- 目的
- 一、昭和49年度に行なう本上岳部春季長合宿を行なうための現地偵察
 - 二、後立山連峰 白馬岳を梅地方面より入
現地偵察を終え、杓子岳、白馬鐘ヶ岳
を経て、鐘ヶ岳を經由し猿倉に下山する

○参加者 C.L.加藤尚志 気象 桑木共之 (部長) 装備
S.L.白原まどか 食料 佐藤順哉 O.B. 前田 敏

○日程 昭和49年7月22日アルプス9号にて入山
23日 白馬岳泊
24日 下山

○装備 略 テントB エコボガス#25

○登山本部 大藤倫昭



9/22

23
22:30 新橋駅発
5:13 白馬駅着 タクシー2台に分乗
5:40 タクシー後発出発 (加藤 佐藤氏)
6:30 梅地山荘着 朝食
7:40 至
8:10 カラステア 戸隠方面をのぞむ
8:40 三ツ尾原入口 カス
9:40 地図をとりおえ、出発 → 25分の休止
10:40 三ツ尾原着 カラステア 雪田直下にお

北風
カス

11:40 白馬大池にて朝食
12:40 水は大池の水にて補給 いそぐ
13:30 雷鳥坂を登りまり、稜線に上る。
13:40 しばらくいたところで小休止
14:20 小葎岳直下で雷の様子をうかがう。
14:40 小雨・カス・雷鳴 (雷は雪倉岳方面?)

15:15 三国境通過 広い稜線である。
天気はよくよい。いそぐ
15:22 馬の背入口にて小休止 いそぐ
15:35

16:10 白馬岳通過 いそぐ
16:30 テントサイト (村営小屋) あはれく分岐を見失うところであた唐松岳方面へ知覚に行かなくてはならなかった。

風
小雨
おれ
強

あつちの中をびしょびしょになつて草堂
重たがみられる。雷鳴も聞こえる。
テントの補強を終え21:30寝る。

2:00 テントをかたおれ ござの中を止て直あ
雷もあり。風強し。
か、別にどうのこうのとなく寝てほ

9/24

西風
強風
湿たガス

- 6:10 起床 外は〜 のガス
- 8:05 撤収完了 始り悪いテントであった。
- 8:25 桑本部長がモト 込しているのを避ける。
- 9:15 杵子岳のトラバ スで天気図を書く。
- 9:40
- 10:25 鐘ヶ岳肩
- 10:45
- 11:45 お花畑大原原で 昼食
- 12:28
- 13:55 小日向山とのコル 小雨
- 14:10
- 15:05 猿倉
- 15:35
- 16:47 白馬駅発 晴天
登山本部に連絡
大町、松本で乗りかえして、東京へ帰る。

○全体として

- ・天候があまりよくなかったので、後立山全体観をつかむことができなかった。
- ・現地偵察をして、数々の問題点が実感としてつかめた。
- ・時間短縮のため杵子山荘まで車で入ってしまったので、スキー場周辺の偵察は不完全ながら、車中からとなった。

注意点

春季に行動するにあたって特に問題になるところ地図と合せて参照のこと。

1. 入山. スキー場のリフトを使用するのであるが、荷物との兼ね合い、所用時間の問題などがある。
2. 天狗原まで. 雪崩がどうなところである。しかも電光型に登ることができない。直登することになる。状態によって登路を止めればよいのだが、東側からきている尾根より登ってもよいようだ。
- 3 幕営地. 天狗原に適地がある。雪崩の心配もなさそうだが、しかし、白馬岳までかなりの距離になる。
4. 天狗原 乗鞍岳越え. 非常にヒトマインディングがむずかしい。このあたりは、積雪期には大雪原にでもなっている。地形も複雑である。指道標はかたりにあるだろう。とにかく広いところである。
5. 尾根取付. 乗鞍岳より尾根をそのまま下降し、小蓮華尾根に取り付く。雷鳥坂あたりに出ることになる。また、このあたりで雪上訓練もできそうだ。
6. 稜線. 雪庇は南側に出る。^(正北) また、両方とも落ちたら止まりがよいところなので注意は必要。しかし、かなり広い稜線である。
7. 小蓮華岳(山). 左、右と尾根が二分しているが、左の尾根へいく。ここから三国境まではかなり広い。左側は落ちるが、右側(北西)はゆるやか。
8. 三国境. カルピタのくぼ地があるが、積雪期においては、くぼ地の入りくまりをぐるりとまわっていく。
→写真参照
クワースも雪にうまれているようだ。

9. 馬の背

夏はさほどといふより全然問題にはならぬ
が、積雪期においては非常に危険となる。
フックス(ザイル)おとしは、かなりの長さが必要
ようだ。雪岩もあるだろう。
かなりの問題箇所である。
両側はスパリとおちいる。

10. 頂上

広いので、下降の際には注意せよ。

☆全体として

- 非常に尾根が長く、始終注意しなくてはならない。
したがって強い体力と精神力が必要だろう。
- 時間、とくにリフト、馬の背、ラッセルなどの点で時間が
かかるおもう。つぎのたらくたらくをこなす。
あうゆる点において軽量化、食事時間の短縮化、水を
あまりついでない(これは燃料節約 軽量化にたかり
もある) 時間
- などについて検討が必要である。
- 装備系は、一般装備の他、ザイルの場合に十分に考慮
しておいてほしい。スパーにかけるとしても、フックス用
ザイル、雪訓用ザイル、行動時に用いるザイル等が必要
になる。
- 標しは教多く必要になる。木はほとんどうまて
しまつたから、竹ざお類のものが必要になる。

→設営、パッキング等も。

✪ 交通費	国鉄 2,200	(*) 今回	国鉄 2,200
	バス 1,000		タクシー 2,500
	+ リフト 600		+ バス 500
	約 4,000		約 5,200

— 以上 加藤 —
& 桑木